



次なる
茨木へ。



茨木市は持続可能な開発目標(SDGs)を支援しています。

説明資料 2

茨木市 都市整備部 都市政策課

東西軸の取組み

令和4年10月11日

(目次)

1 取組みの背景と目的

2 令和3年度取組み

3 令和4年度取組み

① 空間のあり方の検討

② 社会実験

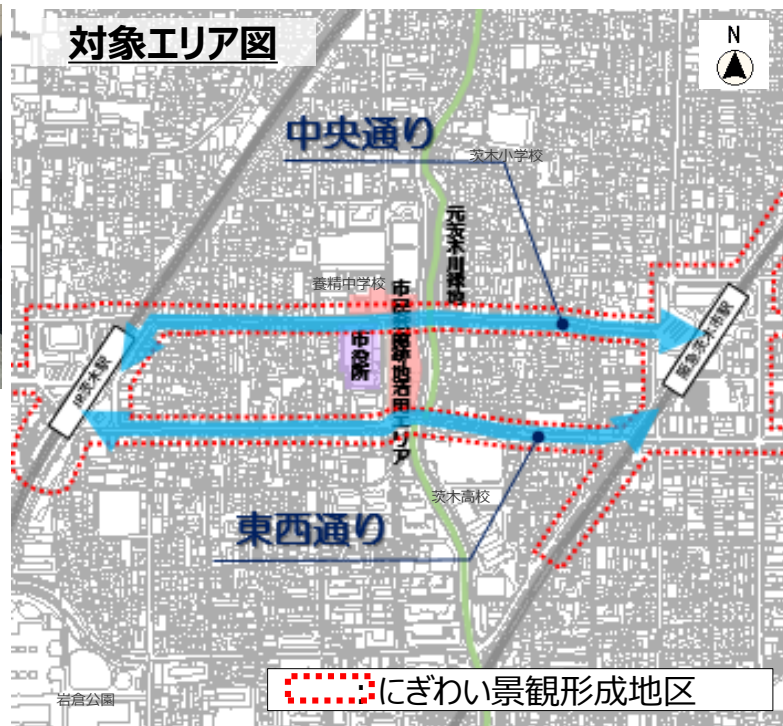
③ ストリートデザインガイドライン

1 取組みの背景と目的

取組みの背景

- 市中心市街地では、新施設「おにクル」やJR・阪急両駅前エリアなどで新たな拠点形成に向けた事業が進行している。これら各事業の効果を面的に波及させてことが必要である。
- 現状、本市のメインストリートである東西軸（中央通り、東西通り）は、電柱が景観を阻害しており、歩道が狭く、自動車中心の道路となっている。さらに、自転車の利用者も多く、歩道上で歩行者・自転車の錯綜がみられる。また、日差しを遮るものや座る場所が少ないため滞在しにくく、通り過ぎる歩行者が多いため、にぎわいに欠けている。
- 景観計画では、中心市街地を「にぎわい景観形成地区」へ位置づけ、良好な景観形成を誘導しているが、通り全体のイメージの共有や空間の活用の視点が不足している。
- 対象地である中央通りと東西通りは将来、一方通行化の構想がある。

● 中央通り



● 東西通り



取組みの目的

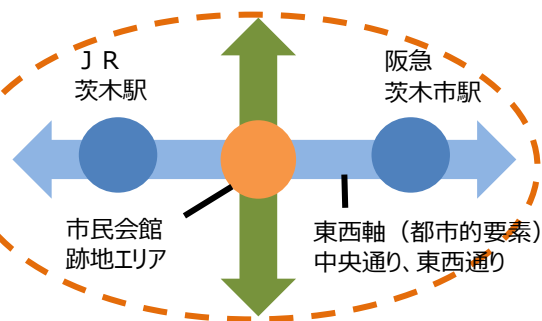
中心部の各拠点をつなぐメインストリートとして、道路空間と沿道建築物が一体となった、歩いて楽しく滞在や活動したくなるような魅力ある景観形成を図ることにより、各拠点のにぎわいを面的に広げ、中心市街地の活性化に寄与する。

● 拠点からエリア（面）へ、にぎわいの広がりイメージ

次なる茨木 グランドデザイン

活動を促す場づくり（拠点・ハード）
⇒面で捉え、波及効果を生み出す

南北軸（自然・文化的要素）
元茨木川緑地



コンセプト：都市と自然が次いでいる中心市街地



東西軸において、歩いて楽しく滞在や活動したくなるような魅力ある景観形成を図ります



アウトプット

ストリートデザインガイドライン(魅力ある通りの指針)

■ ガイドラインに記載を検討する項目

- ・エリアの将来像
- ・道路空間のデザイン
→路面、照明灯、街路樹、サインなどのデザイン
- ・沿道建築物のファサードデザインなどの誘導指針
- ・空間の利活用、運営の方針や仕組み など

(将来の方向性のイメージ)【実績例：大塚市御堂筋】



参考事例：御堂筋



参考事例：豊田市

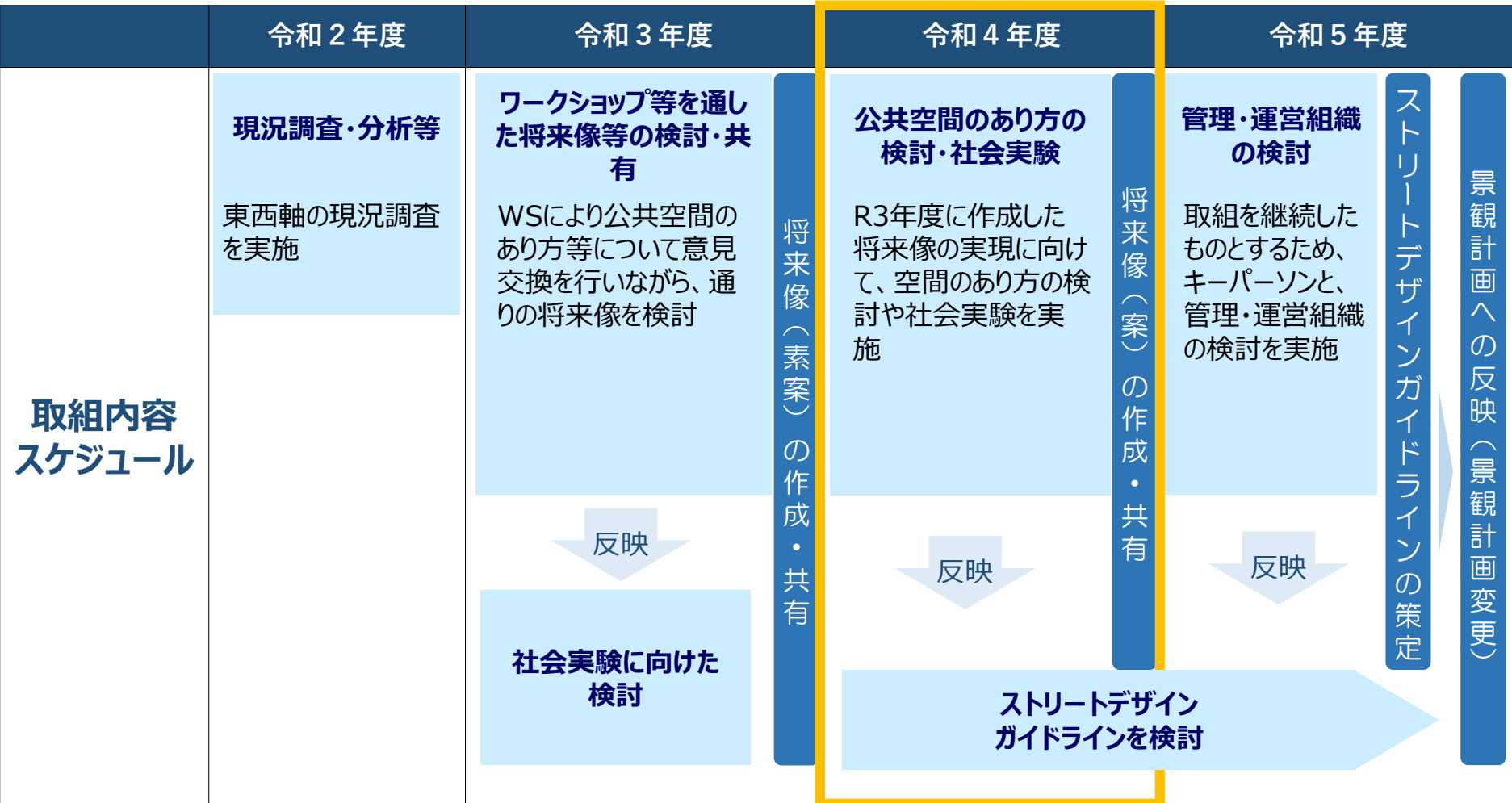
想定する景観計画への反映事項

■ 景観計画に記載を検討する項目

- ・東西軸を景観重要公共施設へ位置づけ
→整備に関する事項及び占用基準として反映
- ・沿道建築物のファサードデザインなどの指針
→景観形成基準への反映
- ・ガイドラインの位置づけについても検討

取組みスケジュール

- 令和3年度は、ワークショップ等を通じた将来像等の検討・共有を実施。**令和4年度の社会実験で検証**を行い、令和5年度にはストリートデザインガイドラインの策定や景観計画への反映を行う。



2 令和3年度の取組み

令和3年度 ワークショップの経過と内容

- 2回のミーティングと3回のワークショップを通して、東西軸をより魅力的な通行にするためのアイデアなどを検討した。

R3.9

キックオフ ミーティング

海外や日本の様々な事例を通して、道路空間が持つ可能性を茨木市でも発揮していくためのポイント・ヒントを教わりました。

R3.10,11,12

ワークショップ

中央通りと東西通りをより魅力的な通行にするために、3つのテーマについて考えました。

テーマ ① 通りの“ミリョク”を探しに行こう！

4つのグループに分かれてまち歩きを行いました。まち歩きを通して、中央通りと東西通りの魅力や課題、可能性等を発見することができました。



テーマ ② 通りの“ミライ”をイメージしよう！

どんな通りだったら歩きたいと思えるのかや、中央通りと東西通りを将来どうしていきたいかなどについてイメージし、話し合いました。



テーマ ③ 通りの“コセイ”を引き出そう！

歩きたいと思える中央通りや東西通りにしていくための取組や空間活用のアイデアを、模型を使いながら話し合いました。



R4.2

ステップアップ ミーティング

トークイベントを開催し、メインストリートの将来像（素案）を共有したうえで、次年度以降の取組に向けて学び、語り合いました。

めざすべき将来コンセプト

人が主役になり、まちの魅力を“^{つな}次ぐ”2つのメインストリート

市役所、新施設・広場などがある中心部と両駅をつなぐメインストリートとして、目的地へ向かう期待感や魅力的な雰囲気演出する空間をデザインし、ストリートの魅力をまち全体に広げていく。

めざすべき将来像に基づくストリートイメージ

①人と人との“ワン・コミュニケーション”を楽しめるストリート

点

スポットづくり
滞在空間

気軽に立ち寄れるオープンなお店の店先やゆっくり滞在できる空間で、ささやかなコミュニケーションが自然と生まれ、通りを行き来する人のゆとりや豊かさを感じることでできるストリート

②沿道の賑わいや季節を感じ、“ワクワク”が高まる歩きたくなるストリート

線

通り全体での魅力的な雰囲気づくり

自然や季節、お店の賑わいなどを感じながら、新施設などの目的地に向けて気分が高まるストリート

③まちなかの個性がつながり、“ふらっと”歩き回りたくなるストリート

面

通りから
まち全体へ

周辺の商店街や施設、東西軸と交差する路地など、まちなかの多様な個性がつながり、歩き回りたくなる起点となるストリート

④ゆったり並んで、安心・安全に歩きやすいストリート

安心・安全

2人並んで歩いたり、子どもからお年寄りまで車や自転車を気にせず、安心して歩ける安全なストリート

➡ 社会実験などの機会で見聞を聞き、磨きあげていく予定

3 令和4年度の取組み

① 空間のあり方の検討

令和4年度の取組み

- 将来像（ビジョン）の実現に向けて、令和4年度は可視化した空間のあり方（素案）を社会実験で検証 →ストリートデザインガイドラインとしてとりまとめ

将来像（ビジョン）

「人が主役になり、まちの魅力を“次ぐ”2つのメインストリート」

R3

空間のあり方を検討

将来像（ビジョン）を可視化

R4

社会実験の実施

可視化した空間のあり方等を検証

ストリートデザインガイドライン
の作成

冊子にとりまとめ

R5

空間のあり方の検討

- これまで実施した現況調査や市民ワークショップの結果等を基に、空間のあり方を検討

(中央通り)

「飲食等の店舗が立地し、賑わいの連続性を感じる」

(東西通り)

「戸建住宅や低層の共同住宅など住宅系用途も多く
全体的に落ち着いた印象」

市民ワーク
ショップ

(次なる茨木グランドデザイン)

コンセプト 都市と自然が次いでいる中心市街地
デザイン 質が高い、統一感がある、活動したくなる

(都市計画マスタープラン)

・中心市街地の公共空間を、交流・活動が生まれる場として有効活用することにより、魅力的なまちづくりを推進する。
・歩行者と自転車、自動車の通行空間を分離、拡大するため、一方通行化の検討を進める。

(茨木市緑の基本計画)

道路や沿道部分の緑化を進め、周辺地域の緑とつながる道づくりを進める。

現況調査
アンケート

目指すべき将来コンセプト

「人が主役になり、まちの魅力を“次ぐ”2つのメインストリート」

めざすべき将来像に基づくストリートイメージ

- ①人と人との“ワン・コミュニケーション”を楽しめるストリート
- ②沿道の賑わいや季節を感じ、“ワクワク”が高まる歩きたくなるストリート
- ③まちなかの個性がつながり、“ふらっと”歩き回りたくなるストリート
- ④ゆったり並んで、安心・安全に歩きやすいストリート

行政計画等

空間のあり方を検討

空間のあり方の検討

中央通り

〔通りのデザインコンセプト（素案）〕

賑わいと交流を育む親しみやすいデザイン

気軽に立ち寄れるオープンなお店の店先で交流が生まれ、人の賑わいや活動が感じられる通り



空間のあり方の検討

中央通り

〔通りのデザインコンセプト（素案）〕

賑わいと交流を育む親しみやすいデザイン

〔各要素のデザインの方向性（素案）〕

< 歩道空間 >

民有地の賑わい・交流が際立つ、楽しく歩けるデザイン

● 沿道敷地が図となる、「地」としての舗装

例：そぞろ歩きを促す変化のあるデザインの舗装材の使用、ストリートファニチャーの色彩の統一など

● 歩道空間を華やかに彩る、アクセントとなる植栽

例：花卉等を多用した植栽空間の整備、沿道事業者との連携の様子が見える管理など

● 歩道空間の親しみある景観への統一感

例：街路灯の再整備、バナーの掲出、将来的な無電柱化など

● 安全に楽しく歩ける歩道の確保

例：交通啓発看板の設置、商店街と連携した案内など

< 民有地 >

賑わい・交流や人の動きが染み出すデザイン

● 商店街として店舗の個性が見える、歩いて楽しい低層部のデザイン

例：プランター等の設置など

● 気軽な会話が生まれるような低層部のデザイン

例：軒先でのカウンター、ベンチの設置など

● 通りとしての連担、賑わいや一体感の創出

例：店舗が連携した一体感あるディスプレイの掲出など

イメージ図（中央通り）



< 車道空間 >

自動車と自転車が共存した、安全な通行を担保するデザイン

● 自転車の路肩通行の誘導

例：交通啓発看板の設置など

空間のあり方の検討

東西通り

〔通りのデザインコンセプト（素案）〕

身近に潤いを感じる良質で落ち着きのあるデザイン

自然による癒しを感じたり、おしゃれなお店でささやかな交流を楽しむなど、自由に過ごせる落ち着いた通り



空間のあり方の検討

東西通り

〔通りのデザインコンセプト（素案）〕

身近に潤いを感じる良質で落ち着きのあるデザイン

〔各要素のデザインの方向性（素案）〕

< 歩道空間 >

通り全体で潤いや落ち着きを感じられ、ゆったりと歩けるデザイン

- **緑が際立ち、全体として落ち着いた「地」としての舗装**
例：落ち着きある色彩の舗装材の使用、ストリートファニチャーの色彩の統一など
- **緑に包まれ、季節感が感じられる街路樹・植栽の充実**
例：豊かな樹形の街路樹の再整備、沿道事業者との連携の様子が見える管理など
- **歩道空間の潤いを感じる落ち着いた景観の統一**
例：街路灯の再整備、バナーの掲出、将来的な無電柱化など
- **安全にゆったり歩ける歩道の確保**
例：交通啓発看板の設置、休憩スポットの確保など

< 民有地 >

軒先にも潤いが見える、歩道と協調したデザイン

- **沿道の街路樹や植栽と連携した、緑の演出**
例：店舗のディスプレイと一体化したプランター、植栽スポットの設置など
- **店舗や行きかう人同士のコミュニケーションが可能となるような、余裕のあるオープンな設え**
例：セットバック空間の確保、軒先でのベンチの設置など
- **通りとしての連担、落ち着きある景観、一体感の創出**
例：店舗のファサードの配慮、照明の活用など

イメージ図（東西通り）



< 車道空間 >

自動車と自転車が共存した、安全な通行を担保するデザイン

- **自転車の路肩通行の誘導**
例：交通啓発看板の設置など

取組みロゴの作成

- 空間のあり方の検討やワークショップでのご意見などを基に作成。今後、東西軸の取組みに幅広く活用



■ 茨木みちクルプロジェクト「みちクル」の意図

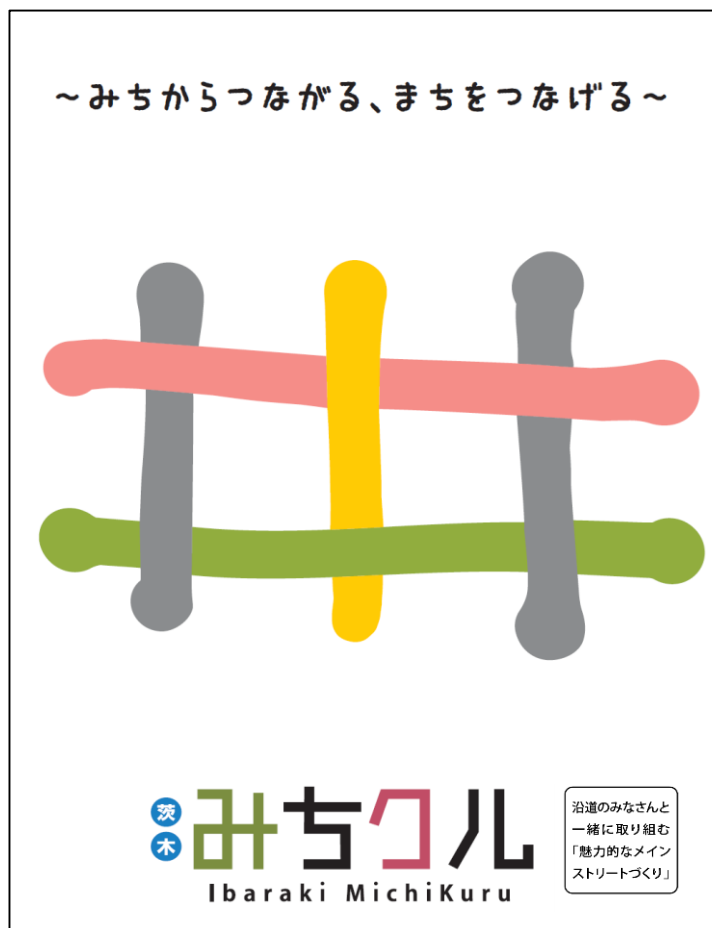
- ・ 中心市街地の各拠点をつなぐメインストリートとして、「みち」に、人がたくさん「クル」ことをイメージし、笑顔に満ちた人たちがクルクルと回遊して、中心市街地の活性化につなげていくことを意図する。
- ・ 歩いて楽しく滞在や活動したくなるような魅力的なメインストリートづくりを官民連携（特に沿道関係者との連携）で取組んでいくもの。

■ ロゴの意味

- ・ 「2コア1パーク」と、それぞれをつなぐ東西軸の関係を具現化したもの。
- ・ 2つのコア（駅）とパーク（おにクル、元茨木川緑地等）を2つの通りがつなぐ、織り込むというイメージで、目指すべき将来コンセプトである「人が主役になり、まちの魅力を“次ぐ”^{つな}2つのメインストリート」を表したものの。

■ 社会実験での使用用途

- ・ 街路灯バナー
- ・ 沿道店舗で掲出するポップアップフラッグ など



3 令和4年度の取組み

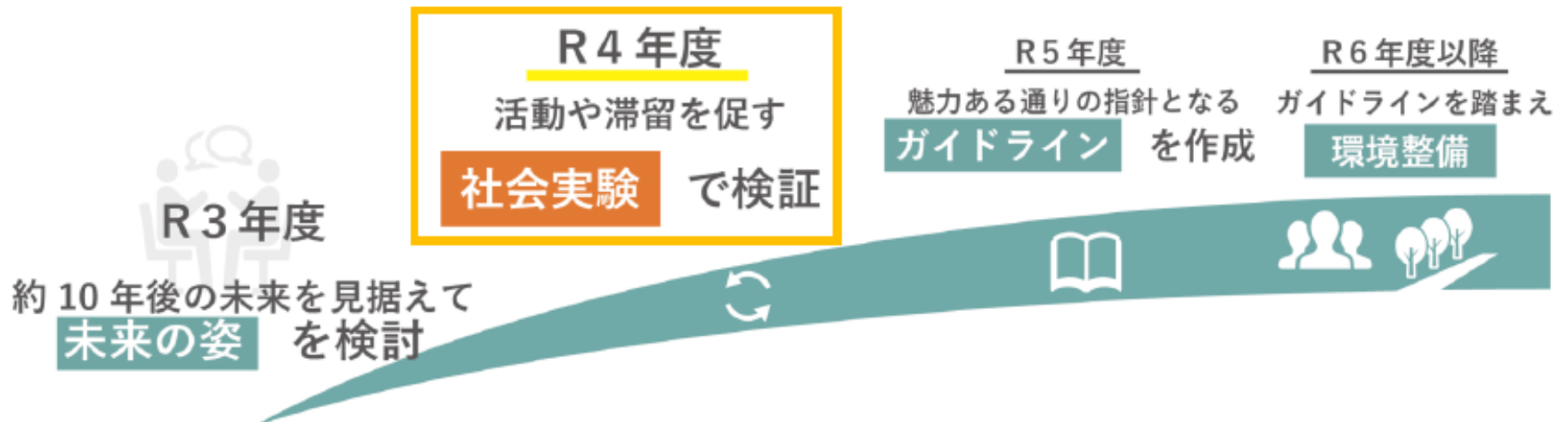
②社会実験

社会実験の概要

- 具体的な将来イメージの共有及び、空間のあり方を検証する社会実験を実施する。

■ 実施概要

- ・日程：2022年11月3日（木・祝）～11月30日（水）
初日に「社会実験オープニングイベント」を実施
- ・主催：茨木市、趣旨に賛同する沿道事業者
- ・会場：中央通り、東西通りにおける各所



新施設「おにクル」の開業などの変化を見据えて、 茨木のメインストリートの空間のあり方を検証

①通りとしての将来像の 可視化

- ・新施設「おにクル」などの中心エリアと両駅をつなぐメインストリートにおいて、ワークショップ等を通じた将来像案を具体化し、空間のあり方について検証する。

点

人と人との
“ワン・コ
ミュニケー
ション”を楽しめる

線

沿道の賑わいや季節を感じ、“ワクワク”が高まる歩きたくなる

面

まちなかの個性がつながり“ふらっと”歩き回りたいくなる

②沿道関係者等の 機運醸成

- ・通りの空間づくりや賑わいなどを持続させるためには、沿道地権者や事業者の積極的な関わりが重要。
- ・将来像案の可視化などを通して、沿道関係者等との関わり方や組織のあり方などについて検証する。

③歩行者・自転車の 通行の啓発

- ・車道への自転車レーンの敷設などが完了したが、歩道空間での歩行者との錯綜など、安全面の向上が課題。
- ・社会実験にあわせて、自転車の適正な通行などを促すサインを設置し、啓発を行う。

安心

ゆったり
並んで、
安心・安全
に歩き
やすい



社会実験の内容

①JR駅前商店街
 沿道の飲食店のしみだしによる通りの賑わいづくりの演出を図る（道路上占用）
 ・テーブル・椅子、社会実験案内看板の設置
 ・商店街を演出するバナー等の設置

IBALAB@広場
 コアパーク内広場をイメージした暫定利用、イベント等市民利用の展開

②おにクル北
 歩道拡幅後をイメージした、人が行きかう広がりある道路空間活用の将来形を検証する（公園敷地内）
 ・ウッドデッキ・植栽の設置
 ・市民意見を集めるブース等の設置

③茨木心斎橋商店街入口前
 商店街との接点で情報発信等を行い回遊を促す（道路上占用）
 ・地域情報案内看板の設置

街路灯バナーの設置
 街路灯を活用し沿道の統一的な景観形成、恒常的な掲出を念頭に置いたバナーの掲出（道路上占用）

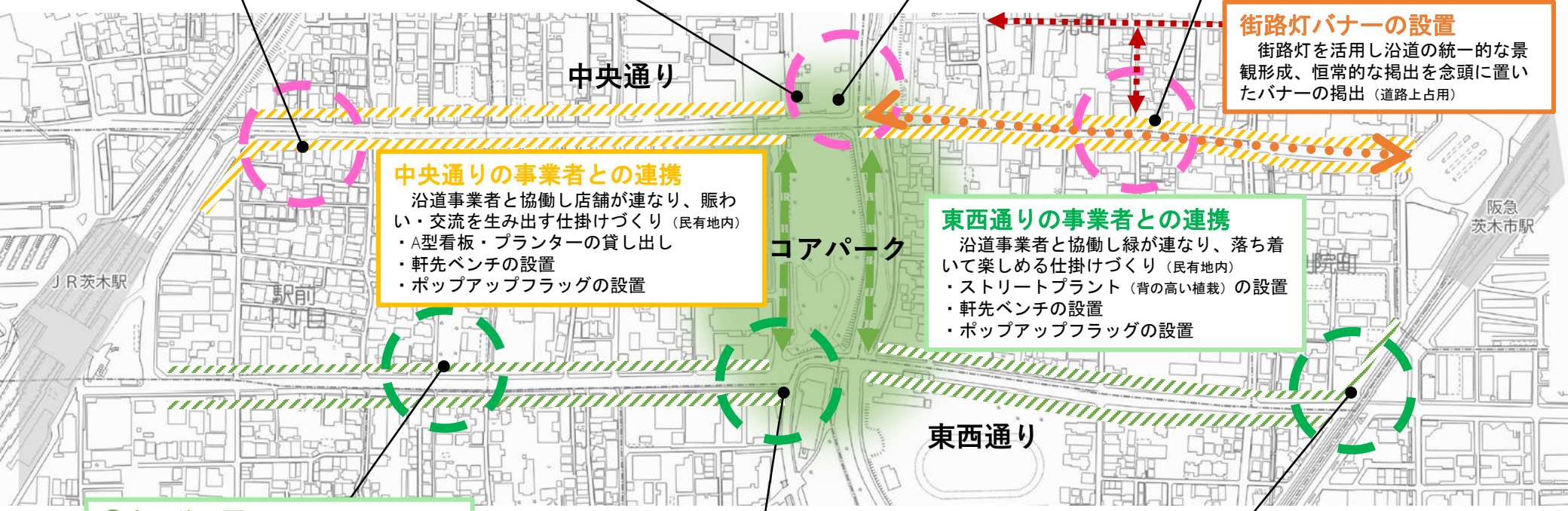
中央通りの事業者との連携
 沿道事業者と協働し店舗が連なり、賑わい・交流を生み出す仕掛けづくり（民有地内）
 ・A型看板・プランターの貸し出し
 ・軒先ベンチの設置
 ・ポップアップフラッグの設置

東西通りの事業者との連携
 沿道事業者と協働し緑が連なり、落ち着いて楽しめる仕掛けづくり（民有地内）
 ・ストリートプラント（背の高い植栽）の設置
 ・軒先ベンチの設置
 ・ポップアップフラッグの設置

⑥東駅前公園
 ストリートに面する公園において、休憩空間の充実や利活用を図り、沿道敷地を活用した滞在空間を創出する（公園敷地内）
 ・公園内でのベンチ等の設置
 ・社会実験案内看板等の設置
 ・イベント等による利活用

⑤おにクル南
 ベンチ等による休憩空間を創出する（道路上占用）ベンチ、交通啓発看板、社会実験案内看板等の設置

④阪急茨木市駅南
 歩道拡幅後をイメージした東西通りの道路上で緑豊かな滞在空間を創出する（道路上占用）
 ・ウッドデッキ・植栽の設置
 ・社会実験案内看板等の設置



社会実験のスケジュール

【実施期間】 2022年11月3日（木・祝）～11月30日（水）（28日間） ※設営：11月1・2日、撤去：12月1日～

			11月																												12月		
			1 火	2 水	3 木	4 金	5 土	6 日	7 月	8 火	9 水	10 木	11 金	12 土	13 日	14 月	15 火	16 水	17 木	18 金	19 土	20 日	21 月	22 火	23 水	24 木	25 金	26 土	27 日	28 月	29 火	30 水	1 木
中央通り	①JR駅前商店街	テーブル・椅子等によるテラス席の設置							搬入設営	設置 (沿道事業者協力による出し入れ)							搬出	(予備日)															
	②おにクル北	ウッドデッキ等の設置	搬入設営	設置																												撤去搬出	
	③茨木心斎橋商店街入口前	地域情報案内看板の設置	搬入設営	設置																												撤去搬出	
東西通り	④阪急茨木市駅南	ウッドデッキ等の設置	搬入設営	設置																												撤去搬出	
	⑤おにクル南	ベンチ等の設置	搬入設営	設置																												撤去搬出	
	⑥東駅前公園	植栽一部撤去、ベンチ等の設置	搬入設営	設置																												撤去搬出	
イベント等の実施			(検討中、期間内の週末数日)																												撤去搬出		
共通	街路灯バナーの設置掲出		搬入設営	設置																												撤去搬出	
	A型看板・プランター・ベンチ・ポップアップフラッグ等の設置（※民有地内）		搬入設営	設置																												撤去搬出	
	看板・サイン設置		搬入設営	設置																												撤去搬出	
	カメラ調査等（※民有地内）			(期間中で数日)																												21	

①JR駅前商店街

沿道の飲食店の参みだしによる通りの賑わいづくりの演出を図る（道路上占用）

- ・テーブル・椅子、社会実験案内看板の設置
- ・商店街を演出するバナー等の設置



※写真はイメージ

②おにクル北

歩道拡幅後をイメージした、人が行きかう広がりある道路空間活用の将来形を検証する

- ・ウッドデッキ、植栽の設置
- ・市民意見を集めるブース等の設置



③茨木心齋橋商店街入口前

商店街との接点で情報発信等を行い回遊を促す（道路上占用）

- ・地域情報案内看板の設置



大阪府大阪市 広告

行先+地域情報案内

行先+駐輪場案内

社会実験概要

久左衛門町 ← 宗右衛門町 →

取組店舗

SPOTAKA
OSAKA / JAPAN SINCE 1922

Coca-Cola
BOTTLED BY JAPAN INC.

OKUUCHI
Service Co.,Ltd.

kk
K + U + I + O

約 650 mm

← 心齋橋

→ なんば

久左衛門町とは

協力：御津連白自治会

約 650 mm

← なんば

→ 心齋橋

周辺の駐輪場案内

当エリアは自転車駐車禁止区域です。
周辺の駐輪場をご利用ください。

約 650 mm

御堂筋チャレンジ2022
(社会実験)

10.15sat-11.13sun
10:00-23:00
(初日のみ 12:00 開始
最終日のみ 19:00 終了)

道徳協力団体であるNPO法人御堂筋・長堀21世紀の会は、大阪市と協力し、道徳堀川北詰～周防町交差点の御堂筋の歩道拡幅に向け、歩道上の適正な運用方法を検証する社会実験を上記期間において実施いたします。

御堂筋の会
Mido-sui CHALLENGE

約 650 mm



※写真はイメージ

④阪急茨木市駅南

歩道拡幅後をイメージした東西通りの道路上での緑豊かな滞在空間を創出する

- ・ウッドデッキ、植栽の設置
- ・社会実験案内看板等の設置



池袋 (グリーン大通り)

※写真はイメージ

⑤おにクル南

ベンチ等による休憩空間を創出する（道路上占用）

- ・ベンチの設置
- ・自転車通行誘導サイン、社会実験案内看板等の設置



※写真はイメージ

⑥東駅前公園

ストリートに面する公園において、休憩空間の充実や利活用を図り、沿道敷地を活用した滞在空間を創出する

- ・ベンチ等の設置
- ・社会実験案内看板等の設置
- ・イベント等による利活用



高石市「駅前広場社会実験」



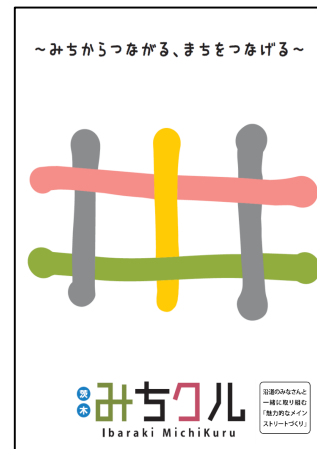
※写真はイメージ

静岡市（草薙駅南口メインストリート「賑わいミニ社会実験」）



街路灯バナーの設置

街路灯を活用し沿道の統一的な景観形成、恒常的な掲出を念頭に置いたバナーの掲出



①通りとしての将来像の可視化

②沿道関係者等の機運醸成

社会実験のイメージ

中央通りの事業者との連携

沿道事業者と協働し店舗が連なり、賑わい・交流を生み出す仕掛けづくり（民有地内）

- ・A型看板・プランターの貸し出し
- ・軒先ベンチの設置
- ・ポップアップフラッグの設置

東西通りの事業者との連携

沿道事業者と協働し緑が連なり、落ち着いて楽しめる仕掛けづくり（民有地内）

- ・ストリートプラント（背の高い植栽）の設置
- ・軒先ベンチの設置
- ・ポップアップフラッグの設置



※写真はイメージ 29

- 沿道関係者には協働による空間づくりが実現できるよう、社会実験の趣旨や通りの将来コンセプト等を1件1件直接説明（約200件）し、**取組みへの理解向上及び参画への意向などの確認**を実施
- 社会実験の当日にオープニングイベントの開催を予定しており、東西軸の取組みに対して意見交換を行うなど**積極的な関わりの場**を設けていく。
- 社会実験では、沿道関係者に主体的に参画いただくことで、まちの担い手としての**意識や機運の醸成**を図る。また、沿道関係者には、後日社会実験の報告会を想定している。

将来像の可視化等に対する
意見交換

沿道関係者自らが
社会実験に参画

沿道関係者等の
機運醸成

取組みの趣旨等を共有



社会実験オープニングイベント

- 社会実験を体験し、参加者同士で意見交換するなど東西軸の取組みに対する積極的な関わりの場として社会実験オープニングイベントを開催する。

■ 実施概要

- ・開催日時：2022年11月3日（木・祝）14時～16時
- ・開催場所：IBALAB@広場
- ・対象者：沿道関係者及び東西軸の取組に興味がある市民の皆様
（R3ワークショップ参加者にも積極的に参加を呼びかけ）
- ・内容(仮)：
 - ・東西軸の取組みの説明
 - ・社会実験の体験
 - ・空間のあり方や社会実験に対する意見交換

周知チラシ
別紙2-2を参照



※写真は昨年度WSの様子

社会実験の主な検証内容

目的	ストリートイメージ	実施内容	検証内容	検証方法
①通りとしての将来像の可視化	点	○沿道の飲食店の滲みだしによる通りの賑わいづくりを演出	○利用者や沿道関係者の意見等を通じて賑わい空間の評価（居心地、設置物、デザイン）、管理運用面での留意点や課題の確認	○利用者及び沿道関係者アンケート調査
	点 面	○歩道拡幅後をイメージした、人が行きかう広がりある道路空間活用と緑豊かな滞在空間スポットの創出 ○ベンチ等による休憩空間の創出 ○ストリートに面する公園において、休憩空間の充実や利活用を図り、沿道敷地を活用した滞在空間の創出 ○商店街との接点で情報発信等を行い回遊を促す	○歩行者空間で創出したそれぞれの休憩・滞留空間の評価（距離感や居心地、デザインなど）や利用状況の確認 ○回遊性向上の確認	○利用者アンケート調査 ○アクティビティ調査 ○モニター調査（WS参加者等）
	線	○街路灯を活用し沿道の統一的な景観形成及び恒常的な掲出 ○沿道事業者と協働し店舗が連なり賑わい・交流を生み出す仕掛けづくり ○沿道事業者と協働して緑が連なり落ち着いて楽しめる仕掛けづくり	○沿道空間の利活用における評価（期待感、設置物、デザイン）の確認 ○管理運用面での留意点の確認	○モニター調査（WS参加者等） ○利用者及び沿道関係者アンケート調査
②沿道地権者等の機運の醸成			（社会実験の取組みへの参画を通じて） ○沿道空間の利活用に伴う運営意向の確認 ○沿道利用に伴う売上等への変化 ○歩行者空間の活用に伴う管理についてのあり方、関わり方（継続的なまちづくりへの参画意向）	○沿道関係者アンケート調査
③歩行者・自転車の通行の適正化	安心	○自転車交通の誘導サインの設置	○空間活用に伴う交通環境の変化等を調査・検証、安全性（交通の錯綜状況）の確認	○ビデオ調査

※舗装の設えなどのハード面については、将来パースを提示し、意見を収集予定

3 令和4年度の取組み

③ストリートデザインガイドライン

ストリートデザインガイドラインのイメージ

- 魅力ある公共空間の実現に向けて、東西軸の通りの指針となる「ストリートデザインガイドライン」を 令和5年度に作成する。ガイドラインは有識者や沿道関係者等の多くの市民の参画を得て作成する。
- 社会実験の結果等を踏まえ、内容の整理を行う。

■ 構成イメージ（骨子案）

1 はじめに

背景・目的・位置づけ・対象範囲など

2 目指すべき将来のメインストリート

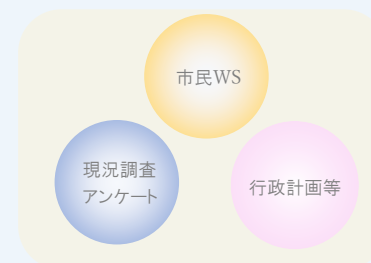
現状整理(道の成り立ち、現況調査、ワークショップ等)・通りの将来像など

3 将来像を実現するためのデザイン方針

エリアの特徴や中央・東西通りのデザイン方針など

4 実現に向けて

運用方針・ロードマップ・推進体制・取組みなど




道路空間（街路灯・舗装・安全柵・街路樹、サイン等）、敷設空間、建築物空間の意匠・形態など

ストリートデザインガイドラインのイメージ


- ガイドラインに基づき、景観を構成する各種要素を段階的により魅力的なものに変化させることを目指す。
→まずは、公共部分の整備等を行い変化を先導し、民間部分の中長期的な変化を誘導する。

先導的に変化


中長期的に変化

 **道路、道路付属物（公）**

景観計画で、東西軸を「景観重要公共施設」に位置付け、整備方針・占用基準と整合を図ることにより、ガイドラインを基本とした整備等につなげる。

 **屋外広告物（民）**

屋外広告物条例を新規に制定し、広告景観面からガイドラインと整合が図れた規制・誘導を行う。

 **建築物（民）**

景観計画や景観ガイドブックの改訂を行い、ガイドラインと整合が図れた建築景観の誘導を行う。

